

BECC JAPAN 2021 発表要項 — ポスター発表者の皆様

BECC JAPAN 2021 開催にあたり、8月31日（火）本会議の発表詳細について、下記の通りご案内いたします。

1. 会場について

本年は、Zoom ミーティングを使用した完全オンライン開催となります。

会場の参加 URL および入室の際のパスワードは、8月27日（金）までにご案内いたします。

2. ポスター発表セッションについて

ポスター発表セッションは、Zoom ミーティングのブレイクアウトルームの機能を用いて行います。

各ルームには、『【発表番号】お名前（ご所属）』のように名前を付け、割り振らせていただきます。

基調講演終了後は、時間に余裕を持ってご自身のルームにご入室いただき、ご準備ください。

会場にご入室される際は、表示名を『【発表者】お名前（ご所属）』の書式に設定していただきますようお願いいたします（表示例：【発表者】住環太郎（住環境計画研究所））。

3. 発表資料について

ブレイクアウトルームでのご発表時にご使用いただく資料につきましては、ファイル形式・サイズ・縦横等の指定はございません。

※参加者から見やすいレイアウトを考慮していただけますと幸いです。

4. 発表資料の web 公開について

①当日公開

本会議当日、ブレイクアウトルームでのご発表と並行して、web 上でのポスターデータ展示および専用フォームを設置しての質疑受付を行います。

専用フォームより受け付けた質疑につきましては、後日テキストベースでご回答をお願いさせていただきます。こちらの内容は、参加者限定公開で BECC JAPAN の web サイトに掲載予定です。

web 公開用資料はポスター発表いただく皆様にご提出をお願いいたします。

ご用意いただいた資料データは、事前に info@seeb.jp 宛にお送りください。

ご提出期限は8月27日（金）までとさせていただきます。

データは PDF 形式としていただけますようお願いいたします。

②事後公開

会議終了後、会議当日の発表資料と一部異なるものでも構わないことを前提として、BECC JAPAN

の Web サイトで公開させていただきます(開催後半年ほどを参加登録者限定公開、のちに一般公開)。

詳細は、会議終了後にあらためてご案内いたします。

※資料の公開が難しい場合は別途ご相談ください。

5. 事前の環境テストについて

本会議の1週間前(8/23・24の午後を予定)に、事前の環境テストを実施予定です。本番当日と同様の環境下で、ブレイクアウトルームへの入室・マイク・カメラ・画面共有のテストを行っていただきます。

こちらについての詳細は、別途ご案内いたします。

6. ネットワーキングについて

ネットワーキングは18時30分～19時30分に実施予定となっております。

ネットワーキングツールの Remo を使用して実施する予定です。

事前登録は不要となっておりますので、当日お時間がございましたらお気軽にご参加ください。

※会場入室時に Remo のアカウント登録が必要となります。

※ネットワーキングに使用する会場は、交流スペースとして終日オープン予定です。

ご参加者同士の交流の場としてご活用ください。

7. 当日の緊急時等連絡先

・事務局連絡先

池田：090-9150-9339

以上

気候変動・省エネルギー行動会議 事務局
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-29
紀尾井町アークビル 3 階 (株)住環境計画研究所内
担当：森、池田
Tel:03-3234-1177 / Email:info@seeb.jp

■ 本会議 2021年8月31日(火)

時間	プログラム	
9:30~10:00 (30分)	開会挨拶・来賓挨拶	
10:00~11:00 (60分)	基調講演(発表・質疑応答含む)	
11:00~11:10	休憩(10分)	
11:10~12:10 (60分)	ポスターセッション/スポンサーセッション	
12:10~13:20	ランチ休憩(70分)	
	A会場	B会場
13:20~14:35 (75分)	A1 口頭発表セッション① “HER/海外事例” ※25分/件×3件	B1 口頭発表セッション② “学校教育/親子間コミュニケーション” ※25分/件×3件
14:35~14:45	休憩(10分)	
14:45~16:00 (75分)	A2 ライトニング発表セッション “情報提供” ※12分/件×6件	B2 口頭発表セッション③ “家庭の省エネルギー” ※25分/件×3件
16:00~16:20	休憩(20分)	
16:20~17:20 (60分)	パネルディスカッション① “スタートアップ×環境・エネルギー”	
17:20~17:30	休憩(10分)	
17:30~18:30 (60分)	パネルディスカッション② “世界のナッジユニット”	
18:30~19:30 (60分)	ネットワーキング	

※口頭発表時間(1件当たり):発表20分、質疑応答5分

※ライトニング発表時間(1件当たり):発表8分、質疑応答4分

■ プログラムの詳細

■ A会場

口頭発表セッション①		
HER/海外事例		
司会：水谷 傑（住環境計画研究所）		
A1	A1-1	スマートメータ版ホームエネルギーレポートの実証研究 向井 登志広（電力中央研究所 社会経済研究所 主任研究員）
	A1-2	ホームエネルギーレポートによる省エネ効果の地域性・持続性に関する実証研究 平山 翔（住環境計画研究所 副主席研究員）
	A1-3	エネルギー事業者による DX（デジタルトランスフォーメーション：デジタル化）と GX（グリーントランスフォーメーション：脱炭素）の推進：米国での行動型 DSM 導入の最新事例に学ぶ 小林 浩人（日本オラクル、オラクル・ユティリティ・グローバル・ビジネス・ユニット (UGBU) アソシエイト・ディレクター、ソリューションコンサルティング）

ライトニング発表セッション		
情報提供		
司会：日高 一義（東京工業大学）		
A2	A2-1	ZOOM を用いた家庭用遠隔エネルギー診断 八木田 克英（東京大学 生産技術研究所 特任研究員）
	A2-2	ナッジとリベートの不均一な節電効果 鳶田 栄樹（産業技術総合研究所 ゼロエミッション国際共同研究センター 研究員）
	A2-3	Web 広報による省エネ家電買換えに対する意識・行動変化の検証 小林 翼（住環境計画研究所 研究員）
	A2-4	地球温暖化対策としての肉消費削減に対する消費者意識 木村 幸（電力中央研究所 社会経済研究所 上席研究員）
	A2-5	家庭からの食品ロス削減を促す情報提供手法の実証調査 福田 守宏（デロイト トーマツ コンサルティング マネジャー）
	A2-6	気象災害時に避難行動を促す報道発表の表現に関する研究 星野 希実（早稲田大学大学院 創造理工学研究科 修士 1 年）

■ B 会場

口頭発表セッション②	
学校教育／親子間コミュニケーション 司会：松葉口 玲子（横浜国立大学）	
B1	B1-1
	省エネ教育推進による家庭部門の省エネ・省 CO2 の可能性
	三神 彩子（東京ガス 都市生活研究所 統括研究員）
	B1-2
	省エネ教育プログラムにおけるオンライン授業の効果
	赤石 記子（東京家政大学 家政学部 准教授）
B1-3	
家庭における親子の省エネルギー意識・行動の定着に関する研究	
高田 宏（広島大学大学院 人間社会科学研究科 准教授）	

口頭発表セッション③	
家庭の省エネルギー 司会：鶴崎 敬大（住環境計画研究所）	
B2	B2-1
	家庭内における省エネルギー行動と意識に関する研究
	坊垣 和明（東京都市大学 名誉教授）
	B2-2
	機器の省エネ性能及び省エネに資する初期設定値変更の可能性
	天野 晴子（日本女子大学 家政学部 教授）
B2-3	
住宅居住者の生活意識と窓付属物の使用状況に関する実態調査	
辻 果歩（東京大学大学院 工学研究科 修士課程）	

■ ポスター発表

P-1	長期環境家計簿でみる消費者のライフスタイルおよび省エネ技術変化の効果分析 板 明果(東北学院大学 経済学部 准教授)
P-2	住宅におけるエアコン電力消費と省エネルギー行動 岩松 俊哉(電力中央研究所 エネルギーイノベーション創発センター)
P-3	「省エネ教育」に関する指導者向け教育教材の開発 矢田 麻衣(住環境計画研究所 主任研究員)
P-4	ニューノーマル時代の市民対話の手法と省エネ行動への活用の考察 福田 一成(アズビル シニアアドバイザー)
P-5	在宅避難を考慮したゼロ・エネルギーハウスにおける夏季の停電模擬実験 稲葉 愛永(早稲田大学大学院 創造理工学研究科 修士課程2年)
P-6	パブリックスペースにおけるQRコードによる省エネルギー情報提示に関するフィージビリティスタディ 何 清怡(九州大学 人間環境学府 学生)
P-7	若年層の環境意識向上を促す情報提供手法の実証調査 福田 守宏(デロイト トーマツ コンサルティング マネジャー)
P-8	家庭内における省エネルギー行動と意識に関する研究 吉田 一居(東京都市大学大学院 環境情報学研究科 博士後期課程/東急不動産 R&D センター)
P-9	48時間停電自立実験におけるエネルギー・温熱環境に関する研究 金 ジョンミン(早稲田大学 理工学術院総合研究所 次席研究員)
P-10	コミュニケーションロボットの発話による行動変容の可能性 宮本 登(東京ガス 暮らしソリューション技術部)
P-11	節水に関する行動変容効果の可能性 荒木 葉子(新渡戸文化短期大学 食物栄養学科 准教授)
P-12	岐阜市 SDGs 未来都市「住みつづけたいまちづくり運動」:中学生の活動を通じた市民の行動変容 岩本 和奏(住環境計画研究所 研究員)
P-13	地域分散型エネルギーコミュニティの発展に向けた調査研究 天羽 伸二(東京工業大学 環境・社会理工学院 イノベーション科学コース 博士後期課程)
P-14	住宅情報サイトにおける分譲住宅の環境性能に関する情報提供方法についての研究 関根 海央(早稲田大学大学院 創造理工学研究科)
P-15	省エネルギー行動のきっかけと意識および行動の変化 大塚 彩美(東京家政大学 特任講師)
P-16	会議や出張に伴うCO2排出量の算定とカーボン・オフセットへの適用 山根 美紀(みずほリサーチ&テクノロジーズ 環境エネルギー第2部 環境エネルギー政策チーム コンサルタント)